

三文字地区の浸水被害の防止策は

平成19年度予算で増額し対策を講じる



中山 美幸議員

三文字地区では7月5・6日の大雨により床下・床上浸水災害が発生した。今まで、何回も浸水災害が発生している現状があり、平成16年度から年次的に下水道の改修工事が実施されている。大雨のたびに、地域住民が浸水におびえる状況は正常とはいえない。被災者の精神的苦痛、地域のイメージダウンや復旧のための労力なども、被害として大きなものがある。さらに、高齢化社会の到来により災害弱者の増加も懸念される状況にある。このことは、現実に災害が発生したときに人命、財産を災害から守り、被害を最小限にとどめることは行政に課せられた最大の責務である。そこで治水対策の現状と課題解決に向けての考え方を問う。

早い時期に問題解決に努める

町長

昭和50年代から本格的な対策に着手し昭和63年度までに三文字都市下水道と西三文字都市下水道を完成させた。昭和62年度持留川からルミネ八チダイヤ敷地を経由し、郵便局横までの上三文字都市下水道を完成させている。周辺の宅地化や、農業用施設のビニール化などにより、雨水の水路への流入スピードが速くなっている関係で、上三文字地区の排水対策が必要になり、平成14年度に基本設計、平成16・17年度工事を進め今年度も予算を計上しており早い時期に問題解決に努めたい。

都市下水道への流入量設計は

中山議員

宅地化、農業用施設などの問題で下水道への流入量が多くなっているものと考えるが、平成14年度実施した基本設計で、上三文字都

市下水道への流入量は計算されていたか。

時間雨量79・7ミリで計算してある

建設課長

現在工事を実施した部分は、流域面積75^ハ、時間雨量79・7^ミで設計をしている。

時間雨量65ミリで浸水した原因は

中山議員

先日の説明によると災害発生時の雨量は65^ミとの説明である。9月10日、都市下水道を調査した結果、本水路に流入する支線流入部は本流より低い流入口であること。平成16・17年度工事部分以北では水路の断面が狭い事が、今回の逆流や浸水被害の原因であると思われるがどのように思うか。

浸水するのを認識した

町長

本流より支線流入部分が低い状況では流れは困難で

あると思う。断面が足りないとの指摘であるが、平成14年段階ではこれで大丈夫と思設計されたと考ええる。

下流部分や国道下にも問題があることや、75^ハの流域面積や65^ミ位の大雨量で浸水する現実を認識した。

設計を変更し水路幅と工区延長を望む

中山議員

平成18年度予算で約1千万の予算が計上され、まだ未着工である。今出来ることは計画を変更し、水路の拡幅と工事区間の延長をし、19年度前期までの完成は望めないか。

災害のない商店街に

町長

どのような排水路を作ったほうが効果的か、計画変更を含めて現状の状況を調査し、19年度予算で増額し対策を講じたい。災害のない、災害の少ない商店街を作らなくてはならない。

年次的に弁付川の改修を

中山議員

将来に向かって計画しなければならぬことは都市下水道の接続部分、弁付川の改修を年次的に計画すべきではないか。

広域的に考えていく

町長

補助事業の導入が出来ればよいが、持留川との関係、将来的に広域に治水対策を考える。

その他の質問

・合併推進の考え方
・スーパースタジアム構想の進捗状況について



三文字地区の浸水